

令和元年度（2019年度）

上小PTA連合会研究集会レポート

第2分科会

テーマ

地域コミュニティとPTAとの連携

～富山県魚津市立経田小学校との交流を通して～

期日 令和元年8月31日（土）

会場 東御市立東部中学校

助言者	鹿取 ちか 先生	丸子中央小学校
司会者	長谷 賢二	和田小学校PTA
発表者	龍野 徳茂	和田小学校PTA
記録者	成沢 哲也	和田小学校PTA
記録者	野竹 国雄	和田小学校教頭
世話係	佐藤 俊彦 先生	塩川小学校

長和町立和田小学校PTA

【学校紹介】

本校は、長野県のほぼ中央部、小県郡の南部に位置し、南は和田峠などを境に諏訪市および下諏訪町、西は美ヶ原などを境に松本市に、北は日向山を境に上田市に接し3市1町に囲まれている。和田の歴史は、古くは黒耀石の産地として知られ、男女倉遺跡などが点在する。江戸時代には中山道の宿場町として栄え、本陣や河内屋等に今もその当時をしのぶことができる。

現在の校舎は、平成13年度に完成し、村民の皆さんの



「おらの学校は村の木を使って」という願いにより、カラマツ、スギの大木を使用して建てられた木のぬくもりを感じるモダンな木造校舎である。

平成24年度に国のコミュニティスクールの指定を受け、学校・家庭・地域が連携し合い和田の子どもたちの成長を願い様々な活動を行っている。



1 テーマ設定について

和田小学校では、毎年富山県魚津市立経田小学校と「山の学校」、「海の学校」の交流を行っており、年に1回ずつ相互に行き来している。今年で44年目となるこの交流活動は、和田小学校及び経田小学校の歴史に深く刻まれている。以前は6年生児童・先生・保護者の交流だったが、和田学校コミュニティ発足後は、和田学校コミュニティ地域交流支援部の皆様に参画いただいている。交流の運営に対し、支援部が主体となり実施していただいていることも多く、今では地域の皆様なしでは迎えることができないくらいになっている。

このところの児童数の加速度的な減少に伴い保護者も急激に減少し、併せて、地域支援部の高齢化により協力いただける方が減少していることから、先々の児童数等を考えると今までと同様の活動を行うことが危ぶまれている。

全校児童56名、先駆けて地域コミュニティを取り入れた地域・学校の現状を一つの交流活動から問題提起し、今後の地域コミュニティとPTAとの連携について今回お集まりの皆様よりご意見を頂戴し、今後の活動の参考とさせていただきたい。

和田学校コミュニティについて

和田学校は、平成21年度よりコミュニティスクールに取り組んでおり、

○地域に育ち、地域に学び、地域を活かす子どもの育成

○子どもを育み、子どもと学び、伝統と文化を伝える地域の活性

を目指し、保・小・中およそ13年にわたって地域の人々が8つ（授業支援部、文化歴史支援部、キャリア体験支援部、和心学習支援部、みどり体験支援部、健康体力向上支援部、安全安心支援部、地域交流支援部）の支援グループを中心に、子どもたちとかわっています。平成29年度より、和田中学校が隣の中学校へ統合され、現在和田小学校で活動していただいている支援部は5つ（学習支援（授業・文化歴史統合）、健康体力向上支援、みどり体験支援、安全安心支援、地域交流支援）となる。

2 活動の内容

【令和元年7月27日（土）、28日（日） 経田小学校訪問】



今年度は、児童13人、学校職員6人、保護者14人、地域交流支援部6人、計39人で訪問にやってきた。今年度は、負担を少し軽減するために、①出発時間を遅らせる ②交流内容を1つ減らす ③終わりの会は、学校に戻らず会場で実施するという3点の改善を行った。交流内容の海釣りが1つ減り、残念な部分もあったが、山育ちの子どもたちにとって、海水浴や地引き網は貴重な体験であった。朝食では大漁鍋をいただいた。また、お別れの際には、地引き網で捕れた魚、カキ、かまぼこ、バイ飯などをお土産でいただいた。子どもたちの様子を見ると時間的な余裕があり、お互いの距離がより近くなった気がした。

【平成30年8月25日（土）、26日 富山県魚津市立経田小学校来町】



昨年度までは、校舎に宿泊し、キャンプファイヤーなどは校庭を使用していた。支援部とPTAはイワナつかみ会場の準備（川のせき止め、イワナの焼き場、野菜などのおもてなし）を主に行っている。今年度からは、長和町にある姫木平自然の家に宿泊できることとなり、魚のつかみどりをした後からは、自然の家で過ごすこととなった。校庭で実施していたキャンプファイヤーも行うことができる。施設を利用することで金銭的な負担は多少増えるが、各交流の準備や片付け、夕食・朝食の準備の面ではかなりの負担軽減となると考える。また、昨年からシルバーの方々から川の草刈りを実施してくださるようになった。

3 明らかになってきたこと

今年の受け入れについて、相手に迷惑をかけない程度に若干の保護者負担軽減を図ることができた。

今後、和田小学校での受け入れについて、6年生に限った体制だと人数が大きく減少する再来年には同様の交流活動を行うことができない。（再来年以降、和田小学校6年生の人数が1桁になってしまう。和田小学校児童1人に対して経田小学校4～5人となる。）

併せて、地域交流支援部の皆様の高齢化等による減少も受け入れる側としては体制が厳しい。

この交流について、大切な交流と思っているが、相手（経田小）側も和田小学校との交流を大切にしてくださっており、訪問するところがお返しすることができないくらいの「おもてなし」で迎えていただいている。そのような中、こちらの都合で一方向的に交流をやめてしまうのは現状では大変難しいと考え、経田小学校への訪問は2年に1回5・6年生が訪問し、経田小学校を迎える歓迎は毎年実施する方向で考えていきたい。

富山県は「修学旅行」が小学校では実施しないため、経田小学校が県外学習をするのは、本交流会のみで、大変重要な位置づけとなっている。

4 課題

現在、町教育委員会・和田学校運営協議会（和田学校コミュニティ）・PTA（保護者、先生）にて「経田小学校交流検討委員会」を結成し、現状・課題について協議をしているが、相手のあることなので今年度、経田小学校訪問時に話し合いを実施した。和田小学校の経田小学校への訪問については、2年に1回ということを了承いただいた。しかし、隔年実施になると経田小学校の6年生が地引き綱体験ができなくなってしまう年ができてしまうという課題が残った。

また、相互交流において訪問したり迎えたりすることにより、かなりの授業時間を費やして準備等をしている。学習指導要領の変更により、新たな学習時間を捻出する必要があることから、こういった活動についても考えなくてはならない。

課題は山積しているが、交流する意義や今まで刻まれてきた伝統ある交流を大切にしながら、お互いに中身は充実し、負担のない簡略化した活動にするべきではないかと考えている。あくまでも子ども同士の交流の深まりを第一に考えていかななくてはいけない。

今回、一つの行事を例に出してPTAと地域との連携について問題提起しているが、多くの学校運営及びPTA活動にも地域の皆様に参画していただいているので、どのようにかかわっていただけるのか、今後の取組について検討していきたい。